

[特集]

市報で 伝わる。



広報に舞い戻った
熱血先輩



広報の形を
模索する戦略家



下関を愛し
Uターンした男



突如仲間に加わった救世主



全国には1724の市町村があり、その自治体の数だけ広報誌があります。所変われば広報誌も変わる…、広報誌とはその街で暮らす人に思いを巡らせ、作られた地域専門誌と言えます。

市報「しものせき」の役割と そのこぼれを聞く

歴史をたどると、下関市で市報が最初に発行されたのは、昭和16年7月11日。それ以降84年もの間、市報はこの街の姿をつづり続けてきました。市報の今と昔…印刷技術やデザイン、文章の表現などは違いますが本質は同じです。市報は今も、市政の動向や各種市民サービスの情報を正確に伝えたり、地域の情報を伝え、市民の地域への愛着や参加意識を高めたりする役割を担っています。

その役割を果たすために重要なことは、一方的な情報発信ではなく「伝えたい」「知りたい」をつなぎ、伝わる工夫をすることです。「そうだね、助かるわ」と理解され、共感が得られ、好感を持たれる。その結果、市民と行政との間に信頼関係が築かれることを願い、私たちは市報を作っています。

当時の出来事や社会情勢が記録されていて、タイムスリップした気分。



昭和16年7月11日
「下関」発行



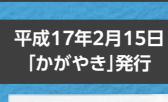
発行開始から1,367号まで、昭和の下関の出来事が記録された市報（一部、平成元年を含む）。

平成元年4月1日
「潮風」発行



市制100周年の節目に誌名を変更。創刊号は圧巻の52ページ。

平成10年4月1日
「みらい」発行



平成17年2月15日
「かがやき」発行



1市4町が合併し、新たな下関市誕生に伴い、リニューアル。

平成22年5月1日
「しものせき」発行

令和元年5月1日
「しものせき」の題字にローマ字を追加。

主役は誰だ

市報を作る上で特に力を入れているのは、特集ページと地域情報ページです。それは年齢や性別、価値観等が異なる私たちが共有する「下関の物語」が詰まっているからです。読者の中にはお気付きの方もいるかと思いますが、市報には毎号多くの市民が登場します。その中です。下関の物語の主役は、皆さんなのです。

今年、まちづくりに取り組む皆さんの姿を紹介した市報が、全国広報コンクールで高く評価されました。この記事の主役もやはり、皆さん。これからも皆さんと一緒に、魅力的な市報を作っていくと考えています。

市民アンケート調査を実施

これまで、市報の読者アンケート調査やお便りなどを基に、記事を選定し、分かりやすく興味や関心をひく文章・デザインを心掛けて、伝わる工夫をしてきました。

しかし実際に、市民の皆さんが市の広報を「どう評価し、どこにニーズがあるのか」は統計で把握することが有効で、広報の充実につながると考え、令和6年に無作為抽出による市民アンケート調査（今回は市報を中心とした設問）を実施しました。今後、定期的に市民アンケート調査を行い、データの推移の結果に合わせて、より良い広報の在り方を検討する予定です。

SURVEY

令和6年下関市の広報に関する 市民アンケート調査結果

- 対象者 18～79歳の下関市民2,000人
- 回答方法 往復はがきとWebフォーム
- 設問数 11問(回答属性2問、自由意見欄1問)
- 回収率 20.7%(414人)



貴重なご意見
ありがとうございました♡

※小数点第2位を四捨五入のため、各項目の比率を合計した値が100%にならない場合があります。
※回答が判断できない場合は「無回答」とするため、有効回答数は設問により異なります。

「特集」ページ

満足度

75.1%



「市政の主要施策」「下関の課題」などをテーマに、内容を掘り下げることで、市民一人ひとりの意識や行動が変わるきっかけになることを目指し、作り上げています。私たちが最も力を入れているページです。

「行政情報」ページ

満足度

73.1%



各分野の行政サービスを幅広く情報発信をしています。優先順位が高いものから「ピックアップ」「情報ステーション」「情報アラカルト」と分類。検索しやすいようにインデックス等を付けています。

「地域情報」ページ

満足度

79.7%



下関の人・団体などを紹介しています。身近な人の活躍に親近感が湧き、下関への「愛着・自信・誇り」が高まることを期待しています。「市民が主役」というコンセプトの代表的なページです。

市報の閲覧時間	読んでいない	5分未満	5～10分	10～20分	20～30分	30分以上
男20代以下(回答者21人)	61.9%	9.5%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
女20代以下(回答者28人)	46.4%	39.3%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
男30代(回答者19人)	42.1%	31.6%	21.1%	0.0%	0.0%	5.3%
女30代(回答者19人)	26.3%	47.4%	15.8%	5.3%	0.0%	5.3%
男40代(回答者23人)	26.1%	30.4%	39.1%	0.0%	4.3%	0.0%
女40代(回答者38人)	5.3%	31.6%	52.6%	7.9%	2.6%	0.0%
男50代(回答者32人)	6.3%	34.4%	34.4%	18.8%	6.3%	0.0%
女50代(回答者38人)	5.3%	31.6%	34.2%	18.4%	10.5%	0.0%
男60代(回答者38人)	0.0%	23.7%	36.8%	34.2%	0.0%	5.3%
女60代(回答者37人)	5.4%	10.8%	35.1%	18.9%	27.0%	2.7%
男70代以上(回答者51人)	2.0%	11.8%	31.4%	27.5%	17.6%	9.8%
女70代以上(回答者58人)	1.7%	5.2%	37.9%	31.0%	12.1%	12.1%

※各項目の中で比較的大きい値に網掛けし、データの特徴を視覚的に明らかにしています。



年代が上がると閲覧時間が長くなる傾向があります。そもそも若者に向けた情報が多くなかったり、若者の活字離れがあったり... 要因を分析しないと。

30代以上は、男性より女性の方が閲覧時間が長い傾向があるよ。



「読んでいない」の回答割合は20代以下が最も高いぞ。この層にどう届けるかが課題だ。



▲6月6日、埼玉県北本市で開催された表彰式



令和7年全国
広報コンクールに
入選しました

29年ぶり!!

日本広報協会が主催する「令和7年全国広報コンクール 広報紙市部 部門」に市報しものせき11月号を応募。山口県の推薦作品に選定された後、全国に寄せられた全65作品の中から入選を果たしました。



市報しものせきが出来るまで

市民の皆さんが、普段何気なく目にする「市報しものせき」のことをもっと身近に感じて、そして違った目線で楽しんでいただけるように、制作側の物語を少しご紹介します。

1 広報企画・デザイン会議

市報発行の約1〜2カ月前に開催します。

！市報しものせきは、下関市広報戦略課の職員で作っています！

会議の前に：

関係部署から掲載依頼

情報収集

記事の選定

レイアウト案の作成

役割分担

表紙Aさん
特集Aさん
ピックアップBさん
情報ステーションBさん
情報アラカルトBさん
市民コーナーCさん
まちの話題Cさん
次世代ヒーローCさん
仕事図鑑Cさん
しもまちキラリCさん
日曜・祝日当番医Bさん



2 関係部署と打ち合わせ

関係部署と何度も話し合い、記事の方向性などを具体化します。

ポジティブ

取材に同行しますよ。一緒に頑張りましょう！

こんな切り口はどうでしょう？

ネガティブ

まだ何も決まっていません。

私たちは何をすればいいですか？

3 取材

現場に向かい、下関で活躍する人、最新の出来事取材。興奮と緊張の時間です。

きっかけは何だったんですか？



パシャ！

笑顔の言葉「しものせき」※母音「イ」の発声の瞬間を撮影します。



ニコッ！インタビューも撮影も職員がします。

4 製作

パソコンの専用ソフトを使って原稿入力、編集、レイアウトなどの作業をします。

ちゅんと伝えなまが...

締め切り、ヤバイ！

アイデアが浮かばない...



印刷会社に原稿データを送付します。





市民の皆さんからの声



QRコード

- スマホの操作が苦手です。QRコードの削除を検討してください。
- 記事の関連情報をスマホでチェックできるから便利です。



QRコードは、紙面にURL等を掲載することに比べて、掲載面積の節約ができます。「必要最低限の核心情報を紙面に掲載する」という市報の編集方針は従来通りのまま、より詳しく知りたい方のためにQRコードを活用することで、利便性の向上を図っています。

店舗情報の掲載

- 毎月、市内にあるお薦めの飲食店を連載してください。特に若い世代は興味あると思いますよ。



行政として公平性を維持する必要がある、明らかに特定の事業者利益をもたらす内容は掲載できません。一方、市民の皆さんの嗜好的情報の需要があることも承知しています。市の関連事業で、公共性が認められるものに限り検討します。

市報しものせきは紙？デジタル？

- 市報をデジタル化し、紙を廃止することでコスト削減をお願いします。
- 高齢になり、市報を紙で見るとありがたみを感じます。



市民アンケートの結果から、市政情報の入手方法について、年代・性別ごとに活用する媒体に特徴が見られました。効果的に情報伝達するには、各属性を意識した戦略的な広報をすることが重要だと考えています。現時点で、特に高齢世代の紙媒体へのニーズがあることから、市報(紙)を廃止する予定はありません。今後、より良い広報の在り方を考える中で、紙媒体へのニーズの変化を注視し、最適な情報発信を目指します。

毎月、皆さんからの感想をお待ちしています。
※詳しくは22ページをご覧ください。

5 校正

36時間後、印刷会社からゲラ(試し刷り)を受け取ります。



文章の誤字脱字、文法の間違い、表記の統一などを入念に確認し、修正します。

～表記方法～
分かりやすく、読みやすい文章を心掛け、情報が読者に正確に伝わるように工夫しています。

堅苦しい官庁用語は使わない

【例えば…】
所定の手続き→決められた手続き
当該→その

簡潔な言葉遣いに

【例えば…】
記者会見を行い→記者会見し
検討することになっている→検討する

間違い
ないよね?
ドキドキッ...

CHECK 〇〇



6 最終確認

印刷物の色の仕上がりに、QRコードの公開日などをチェック。市役所内の掲示板で関係部署が確認します。

7 印刷

インキ濃度を数値化し、正確に色彩を表現します。



出来たよ



8 納品

完成!

